



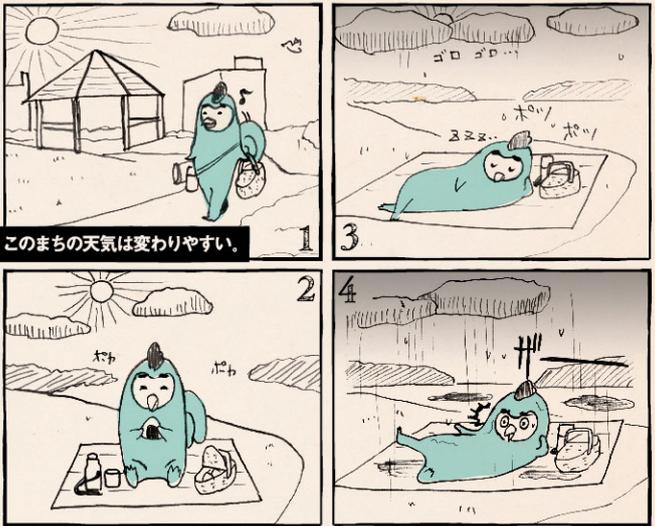
KAYA DO!フリー新聞・季刊

グルーテン
春
No.1
Take free

KAYA DO! Flee NEWS Quarterly Journal

日々このトリー

トリー (tuuli) = 三田市三島町出身の鳥の妖精。趣味は昆虫採集と散歩。tuuliはフィンランド語で風



編集後記

今年はじめの冬は凍え知らず。2月に入ると、朝の散歩途中で見つけたのは、オオイヌノフグリ…富山へ移住して早5年、最も暖かに過ごしました。いつもより早い春を迎える中、巷は不穏な空気に包まれておりますが、暖かな春の訪れがすべてに安らぎを与えてくれるよう願います。[アベ]



kayadoフリー
kayado_f

KAYA DO!フリー新聞・季刊
GLUETEN 春号
令和2年3月発行 | 発行部数 2,000部
発行/KAYA DO!フリー新聞 編集部
www.kayado-f.net

●春号表紙イラスト/イラストレーター・シヨリ

GLUETENとは/ラテン語で接着剤。「繋がって新しいものに」という思いがこもっています。

ひきだしの輪



今回のひきだし人
小澤泰史さん
[愛知県から移住]

お仕事

黒部市地域おこし協力隊。
移住・定住促進事業や
地域の方と黒部を感じる
グリーンツーリズムのトライなど。
以前は自動車に
関わる仕事だった

移住して 変化したこと

地域の特色や伝統を
大事にしたいと思った。
人間として強くなれる
学びや経験の機会が
増えた

文化の違い

江ざらい。刈払機や
チェーンソーが身近。
週末以外の飲み会

移住のきっかけ

富山が大好き/
特に黒部は面倒見の
良い方たちとの交流が
多かったのが決め手

黒部の好きなこと

人・食文化・遊び
獅子舞や伝統行事が
魅力的。
農・山・海・温泉など
自然がすぐソコ。

これからしたいこと

地域の方と魅力を
域内外へ発信。
ゲストハウスを営んで
何かと何かをつなげたい

移住して 困ったこと

カビ…



季刊発行によせて。

2018年4月にKAYA DO!フリー新聞を発行して以来2年が経ち、この春から季刊紙となりました。季刊になることで、イベントに関する内容の詳細はネット上でお伝えすることになり、この紙面では、イベントの趣旨の一つでもある「地域を知り、人と人をつなげる」読み物として、オンラインでは伝えきれない季刊ならではの時間の流れ、自然や人の温度を感じられるような表現ができればと思っております。タイトル「GLUETEN」は、ラテン語で接着剤の意味。繋がって新しいものに、との思いを込めました。なお、この春号のあとは、夏・秋・冬にそれぞれ発行する予定です。引き続きご愛読ください。

[写真：2020年3月のパッシブタウン内・さくらみちを望む]
パッシブタウンにはさまざまな植物があります。詳しくは、毎月第2日曜日開催のKAYA DO!フリー(2020年5月以降開催予定)でもご案内しています。

外から見た地域の姿を知り、新たな地域の魅力を見出すコーナー。
このまちの「いいこと」とは？黒部へ移り住んだ人たちに聞きました

まちに、風が吹いた。

其の一「風土」～まちのむかしと今を見つめて。

2017年7月、黒部市三日市の北端に誕生した、パッシブタウン。まちの新しいランドマークともいえるこのスペースが生まれたことで、タウン周辺の地域がどのように変わったのか。まちのむかしと今を見つめてみました。



さくらみちのむかしと今



八心大市比古神社跡地のむかしと今



3のつく日に市場が開かれていたためその名がついたとされる三日市町。この町の北側に、先進的なまちづくりのモデルとして、パッシブタウンが生まれました。このタウン周辺地域は「茅堂」と呼ばれていますが、この地名は、タウン内で開催されているイベント『KAYA DO!フリー』の語源となっています。

また、「茅堂」は明治時代頃まで桜の名所として知られていたとされています。当時はこの辺りに、義経駒つなぎ桜といわれる大樹をはじめとした50本以上もの桜の木があったそうです。その頃にあった桜はもう残ってはいませんが、パッシブタウンが整備された時、側を走る高橋川

沿い165mに渡り『さくらみち』と称して、40本の桜(エドヒガン)が植えられました。当時花見客で賑わって

いたとされる桜景色を、今もここでもかき知ることができます。

そして、このさくらみちの終点に大きな杉の木がありますが、この周辺は『八心大市比古神社跡地』とされています。2019年9月のKAYA DO!フリーで「風土語り部シリーズ第3弾・八心大市比古神社(通称:三島神社)と茅堂のお話」を行いました。その後、この場所へ由緒を伝える看板が設置され、歴史の変遷をより身近に感じられるようになりました。看板には「茅堂」についても書かれているので、通りがかった際はぜひご覧ください。パッシブタウンの誕生から早2年。地域のむかしと今をつなぐ『場』ができたことで、人が行き交い、繋がり、にぎわいが生まれました。それは新たな風となって、このまちの未来をつくっていくことでしょう。

●資料協力/ 荻野弘文さん(三日市三日町)、高橋宏樹さん(パッシブタウン設計員) ●参考文献/ 三日市町誌

春のKAYA DO!フリー

事務局より

《見ごろの植物》

新芽が芽吹いて賑やかに

4月

ユキヤナギ
コブシ
ハナモモ

さわやかな風を感じる季節

5月

ツツジ
エゴノキ
オオデマリ

緑が深まり色鮮やかに

6月

ジュンベリー
アジサイ
ヒペリカム

ローカル・コミュニティイベント
KAYA DO!フリー
黒部郵便局前・パッシブタウン内
センターコモン 他に開催

イベントについての詳細は
ホームページやSNSで

f kayadoフリー @ kayado_f



サポーター募集!

一緒に楽し(KAYA DO!フリーを盛り上げましょう!)
(会場設営、ワークショップ補助など)

●興味のある方は、下記までご連絡ください

E-mail info@kayado-f.net

TEL.090-1395-3399 [KAYA DO!フリー事務局]

KAYA DO!フリーと私①

KAYA DO!フリーで活躍する地域人に語っていただくコーナー。イベントが立ち上がってから約2年。そこに参加するスタッフ同志で新たな出会いがあったり、住みなれた地域について改めて知る機会があったり。イベント参加を機に変化したこと、またこれからについての思いなどを綴ります。



若井直美さん

KAYA DO!フリーのイベントに関わる以前は、パッシブタウンの庭を住人以外が散歩してもいいとは知りませんでした。でも実行委員の一人として2年が過ぎた今は、黒部の四季を感じる大切な居場所となりました。それは毎月第2日曜に、庭の自然を五感で楽しむ「野あそび」の案内人をしているからです。イベント当日の参加者は午前と午後で20人、1時間の自然体験です。

それとは別にサポーターとして参加してみたいはかがでしょうか?住む人の暮らしに寄り添うタウンの自然が、自分のなかの新たな可能性を気づかせてくれると思いますよ。

若井さんのプロフィール

黒部市在住、72歳。平成5年以降、シエアリングネイチャーゲームリーダー、富山県ナチュラリスト、森林インストラクターの資格を取得。地元でお気に入りの場所「生地海岸から宇奈月温泉までの道」。4年前から続けているブログもご覧あれ。『黒部川扇状地は水と風の通り道』で[検索]